

# 【ねがいはしては】

平成23年8月25日

KYOWA SCHOOL

第250号

「こころそうじ」

今年のキャンプ、毎日お昼ごろからザーッと雨がやってきます。

数年前から始めたキャンプ場のお手伝い。

依頼されたわけではなく、生活する中で自然にそうなっただけです。見返りを期待することもなく、ただただ少しでも役に立ちたい、働くことの喜びをかみ締めたい。子どもたちには必要なことだと感じています。

働く・・・傍（はた）の方々を楽にさせること、それが『はたらく』。働かせていただいた方も、働くのをじっと見つめていた方も、最後に見せるもの・・・笑顔です。ありがとうございます。

もう30年近く前から家族同然のお付き合いをさせていただいているキャンプ場の皆さんへの恩返しです。

団体さんが帰ると、大量の布団（マットレス）が返却されます。それを一気にキャンプ場前のガードレールに掛けて干します。一旦トラックに積まれた布団（マットレス）は、ゆっくりと走る荷台から1枚ずつおろされ干されていきます。連係プレイが試される瞬間、タイミングよくリズムカルに干されていくと、みんなの心も弾みます。

しかし今年の天気はなかなかの気まぐれさん。雲がかかってきたかなと思うと、とたんに雨が降り出します。それとばかりに、今度は干してあった布団（マットレス）を先ほどとは逆に、どんどん取り込みます。ゆっくりと走るトラックの荷台に規則正しく積んでいきます。これもリズムが出てくると、みんなの心は明るさを増し、積み終われば達成感が全身を覆います。取り込んで少しすると、また晴れてきます。まっ、仕方がないか・・・。大自然相手の仕事には、「仕方がない」の一言が似合います。

毛布も一枚一枚たたんでいきます。隅を揃え、ていねいにたたみます。こころがきれいになっていくのを、皆、全身で感じ始めます。

見返りのないお手伝い、これは子どもたちが成長する上での大切な基本です。その原点は家族です。助け合いの中から絆を深めていきます。しかし今の家族の中には、時折、少し違った光景が見られます。「○○○しておいてあげるから、あなたは勉強していなさい。」などと、本人が100%するのが当たり前のことを家族が変わりにやってしまい、肝心の子の生活面での成長が損なわれたりします。助け合っているかのように見えますが、これは立派な見返りを期待した行動です。子がするべき仕事を手伝うことで、子には勉強をしてもらい、その結果成績が上がってほしい。親欲。

キャンプでは毎回の食事の後片付けは自分でします。洗い物も自分で行います。お茶碗、お箸、おわん・・・。持ち込んだ大きなリュックの管理も自分でします。スタッフのひとりが冷静に観察しています。「男の子の部屋はとてもきれいです。」

最終日前日、例年になく雨の多い日が続いたあとのトイレはドロドロです。底の汚れたままの靴やサンダルのまま入ってくるわけですから仕方がないのかもしれませんが。ある時、私はトイレに入った際、他の団体の4・5年生位の子どもたちが数人いました。一人が大便をしているらしく、周りの子たちが「出たか。」などと冷やかしています。そしてある子が突然その子の入っているドアを蹴飛ばしました。「ドンッ。」・・・私はどこの誰だか知りませんが叱りました。「蹴飛ばすんじゃない。」・・・何も言わずにその子どもたちは、そーっと、バツ悪そうに出て行きました。

お世話になっているトイレさんが泣いている。叱る前、私のとなりで小便をしている子は、ズボンを下ろしてそのまま用を足しています。尿が便器をはずれて飛び散ります。

哀しみが私を包みます。生きることの基本・・・この子たちは何を学んでいるのだろう。学ぶって何なのだろう。成長するって何なのだろう。学校って、家族って・・・。

そして最終日、前日からスタッフさんたちが帰る準備をしておいてくれたせいか、午前中早々に、荷物を下へ下げることができました。「まだ時間はある・・・。」

私はスタッフさんたちに声をかけ、トイレ掃除を始めました。便座の真下は特に注意深くこすります。先ほどまで鼻を突いていたトイレ臭は、少しずつトイレクリーナーの匂いに変わっていきます。男でありながら、女子トイレを掃除していたT君はちょっぴり勇気のいる作業だったと思います。

きれいになった。

ありがとう。

お掃除をさせていただいた私たちの心が一番きれいになったのでしょね。

私たちにとっての本物のお正月は、幕を閉じようとしています。

今年3月、25歳で天国へ旅立ったJちゃん、見ていてくれましたか。高校生の時、「先生、私2日前から嬉しくて寝てないよ。」と、言いながら、キャンプ場へ着いて一番気持ちよさそうに昼寝をしていましたね。KYOWAで1番のキャンプファンさん。あなたが今年、キャンプへ参加していたら、きっと先頭きってトイレ掃除をしていたでしょうね。縁あってKYOWAの門をくぐった子たち、保護者の皆さん。もっともっときれいになりましょう。

キャンプのしおりの裏にあることばより、「もしとなりに誰かいたら・・・そっところの手をにぎってあげてね！」